



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう



静岡新聞

記事を読んで問いに答えなさい。

解答例

2020年5月17日朝刊

自動運転 開発競争激化

自動運転時代の本格到来を見据え、自動車メーカーの開発競争が激化している。今年は限定した条件で人間に代わりシステムが運転を担う「レベル3」相当の技術を、ホンダが国内で初めて実用化するとされ「自動運転元年」とも呼ばれる。ただ事故が起きた際の責任の所在などルール整備は十分でなく、普及には課題が多い。

自動運転の技術段階は五つある。レベル3は高速道路の渋滞時などに、運転手が緊急時に直ちに対応できる状態であれば、走行中に前方から視線を外すことができる。常に前方を見る必要があるレベル2とは異なり、携帯電話の操作やテレビ視聴も可能になる。

政府は今年をめぐり高速道路でのレベル3実現を目指す。レベル4に当たる限られた地域での無人自動運転移動サービスも、今年中の実現を目標としている。先頭ランナ

「レベル3」実用化へ ルール未整備、普及に課題

ホンダ	「レベル3」技術を搭載した高級車の今年発売検討
スバル	現行の運転支援システム「アイサイト」改善。レベル3は当面目指さず
トヨタ	高速道路で分岐合流や追い越し、車線変更を自動で行う車の今年投入を計画
日産	レベル2を「スカイライン」に既に採用。展開拡大へ

と目されるホンダは、高速道路でのレベル3技術を搭載した高級車の発売を検討する。

自動車業界ではレベル3の早期実現には否定的な意見も根強い。自動運転中に事故が起きた場合、レベル2までは運転手が全責任を負うが、レベル3では責任の一部がメーカーにあるとされ、線引きも明確ではない。

関係者は法整備の行方を注視する一方で、「一度でも事故が起これば自動運転への信頼は失墜する。技術の壁は高い」と指摘する。現行の運転支援システム「アイサイト」を元地図データなどの価格を下げ展開拡大を図る。

の評価が高いSUBARU（スバル）の中村知美社長は「（性能をさらに改善させ）レベル2・99を目指す」と話し、当面はレベル3を実用化しない方針だ。

トヨタ自動車は今年、高速道路の入り口から出口まで自動走行できる車の投入を計画する。分岐合流や追い越し、車線変更などを自動で行うレベル2相当の技術を搭載する見通しだ。日産自動車はレベル2の技術を代表車種「スカイライン」に既に採用している。3次

①自動運転の「レベル3」とは、どのような技術か。記事中の関係する部分に線を引きなさい。

1段16行目～「レベル3は～テレビ視聴も可能になる。」に線を引く。

②記事から「自動運転の普及への課題」を読み取り、1つ書きなさい。

(例)事故が起きた際の責任の所在などルール整備は十分でないこと。

事故が起きた場合の責任の一部がメーカーにあるとされ、線引きも明確はない。 など。

③あなたの「自動運転への期待」を30字～50字で書きなさい(句読点を含む)。

(例)

高齢化社会において、自動運転の普及により、高齢者が安全に移動できるようになることを期待したい。

(47字)

運転技術の程度が事故の起こりやすさにつながることなく、誰でもが安心して通行できるように期待したい。(49字) など。

年 組 名前

作問者: 静岡新聞NIEコーディネーター 矢沢和宏

(中学校～高校/技術家庭、総合)